

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

課所名・担当名	健康長寿課
担当者名	

<注>表を結合しないでください。

「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成してください

保険者名	貴自治体において第9期介護保険事業計画に記載している内容						令和6年度(年度末実績)				公表の状況	
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第9期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策	実施状況	公表の方法
戸田市	給付適正化	給付実績の活用による適正化	本市の高齢化率は、全国平均と比べて低いものの、高齢者人口は増加の一途をたどっている。第9期介護保険事業計画における介護保険料は、県内でも高い状況である。今後も高齢者人口の増加に伴い、介護や支援を必要とする高齢者の増加が予測される中、必要な介護サービスが、適正に提供されるよう取り組む必要がある。 なお、令和6年度より、給付費適正化主要3事業と再編し、「要介護認定の適正化」「ケアプラン点検」「医療情報との突合・縦覧点検」を実施する。	介護給付適正化の推進	介護給付費適正化事業 要介護認定の適正化 ・認定調査状況チェック:全件実施 ケアプラン点検 ・ケアプラン点検:年3事業所で実施 ・住宅改修、福祉用具購入・貸与調査等の点検:住宅改修について、事前申請時に全件点検するとともに、状況に応じて実地調査を実施 医療情報との突合・縦覧点検 ・医療情報との突合・縦覧点検:全件実施	なし	令和6年度は予定通り、給付適正化主要3事業について、実施した。 要介護認定の適正化 認定調査状況チェックとして全件(3,046件)実施した。 ケアプラン点検 ケアプラン点検として、1事業所2事例で実施した。住宅改修、福祉用具購入・貸与調査等の点検として申請時に全件(450件)実施した。 医療情報との突合・縦覧点検 全件実施した。(突合2,073件、縦覧点検2,510件)		介護給付費適正化事業(主要3事業)はすべて実施でき、返戻処理等につなげることができた。	・令和6年度については、ケアプラン点検のうち、事業所に対するケアプラン点検の点検数が1事業所のみの実施となってしまったが、介護給付費適正化主要3事業について実施することができたため、概ね目標通りに実施することができた。 ・令和7年度以降についても、国の方針どおり、要介護認定の適正化 ケアプラン点検 縦覧点検・医療情報との突合の介護給付費適正化主要3事業について、引き続き実施する。	実施	市ホームページ
戸田市	自立支援・介護予防・重度化防止	一般介護予防事業の推進	・TODA元気体操教室数(会場)及び介護予防リーダー養成者累計数は順調に伸びている。一方で年齢や心身の状況、所属コミュニティに関わらず、誰もが通える身近な場所にあるTODA元気体操教室(会場)が求められていることがある。また、介護予防リーダーの平均年齢が約74歳と高齢化が進んでいるが、世代交代が難しく、継続困難に至る教室(会場)が発生する可能性がある。	TODA元気体操教室(会場)の新規整備	TODA元気体操教室(会場)の新規整備事業 R6 R7 R8 立上げ教室(会場)数 4 3 3 R6は実績値、R7以降は目標値 年齢や心身の状況、所属コミュニティに関わらず、誰もが通える身近な場所にあるTODA元気体操教室(会場)を創出することを目標とする。	なし	新規TODA元気体操教室(会場)立上げ数:4か所のうち3会場は町会等関係なく誰もが参加可能な会場 ・新規TODA元気体操教室(会場)の整備を図るため、地域住民同士の繋がりを深め、介護予防意識を高めるとともに教室(会場)運営を円滑にする介護予防リーダーを新たに15人養成した。 ・新規教室(会場)及び既存教室(会場)に理学療法士を年間延べ154人派遣した。		目標を上回るTODA元気体操教室(会場)新規立上げを達成することができた。	介護予防リーダー新規養成者数が減少したため、減少理由を考察したうえで、考察結果に基づき対応する。令和6年度は介護予防リーダー養成講座開催時期を例年の10月から6月の上半期に変更したことが要因の一つと考察し、令和7年度は、再び10月の下半期開催に戻して実施する。	実施	市HPで公開
戸田市	自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア会議の開催	・自立支援に資するケアマネジメントを基本に、地域ケア会議を通して地域課題を共有し、資源開発や政策形成につなげていくことが求められている。 ・ケアマネジャーについて、多職種の専門的な視点に基づく助言を通じ、参加者に専門職(助言者)の多角的な視点の気づきやアセスメントの能力を向上させる必要がある。	自立支援型地域ケア会議の開催	自立支援型地域ケア会議の開催 R6 R7 R8 開催回数(回) 4 4 4 R6は実績値、R7以降は目標値 多職種の専門的な視点に基づく助言を通じ、ケアマネジャーに対する専門職(助言者)の多角的な視点を学ぶ機会やアセスメントの能力向上の機会とすることを目標とする。	なし	自立支援型地域ケア会議の開催回数:4回 ・目標では年4回開催で、予定のとおり開催することができた。 ・事例提供を行ったケアマネジャーから、「事例提供を通して多くのことを学ぶことができた。分からないところを専門職に聞いてみて、しっかりした根拠を持ってプランを作成し、それをチームで共有することが大切だと感じた。」などの感想があった。 ・助言者(専門職)からは、「モニタリングがあることで、事例提供したケアマネジャーだけでなく助言者も振り返ることができる。」との感想があった。		目標のとおり自立支援型地域ケア会議を年4回開催することができた。 各回会議後に事例提供をしたケアマネジャーと助言者を含めた振り返りを行うことで、会議の良かった点や課題点を確認することができた。	令和2年度から開始した自立支援型地域ケア会議(市主催型)への事例提供事業所が、市内居宅介護支援事業所を1巡することになる。1巡目は「アセスメントを振り返る機会」「多職種からの専門的視点を学ぶこと」を会議目的として据えていたが、2巡目は、会議の目的として「提供事例に係る生活課題の解決」に重きを置くことを追加したい。	実施	市HPで公開